心暖る一日でした

敬老会―子守り歌の大合唱に感激

四山大島分会　久保田昭子

敬老会（写真参照）は、柳川の保養センターで、まず、おじいちゃん、おばあちゃん方に温泉に入っていただき、十一時頃から演芸にはいりました。

おじいちゃん、おばあちゃんのなかから踊り、歌、ハーモニカ独奏などが次から次と出、楽しい一日でした。帰りのバスの中でも、おじいちゃん、おばあちゃん方の生き生きとした歌声を聞き、このような機会をもっともっと、もってあげられたらと思いました。

その日私は、感激したことがありました。といいますのは、あの三池闘争の中で生れた〝主婦の子守歌〟の大合唱がはじまったのです。恥かしいのですが、主婦会員の私はこの歌をよく知らないのです。それを、おばあちゃん方は一番から最後までよく覚えていらして、ご自分があの闘争を闘ってこられたという思いが、私にひしひしと感じられたのでした。今年は八十六名の方がご参加下さいましたが、来年は全員お元気で参加されるようお祈りします。

最後になりましたが、あるおじいちゃんから「去年の山鹿もよかったが、今年の、柳川での敬老会もとてもよかった。主婦会の皆さんのおかげで、ほんとうに楽しい一日でした。ありがとうございました」、とのありがたいお言葉をいただきました私は初めて参加させていただいたのですが、ほんとに心暖まる思いの一日でした。

×

敬老会については、本紙前号記事をご参照ください。

【編集部】

福岡県母親大会に参加して

〝第二十回福岡県母親大会〟が、十月二十九日福岡中央高校で開催されました。大会には三池主婦会からも代表が参加しましたが、そのなかの一人――主婦会三川の野添分会の寺本寛子さんが手記を寄せてくださいました。次に紹介します。

常々の無関心を反省

二度と戦争を起こさぬために

三川野添分会　寺本寛子

福岡に下車した頃から急に寒くなり、襟を立てながら会場へいそぎました。主婦会からは本部役員や指導部長など、沢山の方たちが参加されていました。

着いた会場は、一ぱいの参加者でした。小さな子供さんづれの若いお母さんたちの姿があっちこっちに見られ、力強く感じました。

大会宣言の中に述べられているように、日本がとくに世界で唯一の被爆国であるということで、世界のどこにも、二度と戦争を起こしてはならない、との母親たちの強い願いから、大会は始まりました。「平和を守る」「子供のしあわせを守る」「婦人の生活と権利を守る」を三つの目標として、母親運動が発展してきたのだということを切実に感じました。

新学習指導要領など教育問題についても話し合われましたが、この日の記念講演で、講師の今吉まさえさんが「朝鮮の婦人と子どもたち」、というテーマで、実際にいかれて、現実に見てこられた実態を、長時間にわたり具体的に話されたのに感動しました。平和と民主主義の国で、想像もできない人間らしさ、日本とは比較されない位い行きとどいた管理で、幸せな国だそうで、みんながらよくされ、もてなされて本当によかった、と喜んでいられました。

とにかく命とくらしを守るために、総選挙、統一地方選挙の勝利を通じ、保革逆転、革新による民主政治の実現にむけて闘うことを決議して大会は終りました。

常々無関心で不勉強な自分にはほんとに意義のある一日でした。

知恵袋

退職金で思う事

港務旧井分会　酒井妙子

私は息子の将来のためにと思い、出産時から、ある保険を二十五年間掛けてきました。それが来月満期になるのです。

こころが悲喜ともども、複雑な気持である。それは、父ちゃんが日頃重労働に身体を蝕ばまれながら二十五年間も掛けてきた金が、もらえる時になって思うと、契約時と同一の金額でしかない、ということの悲しさです。当時と現在の物価から比較対照する時、金の値うちは五分の一か十分の一に減っているのです。したがって、現在二十万円もらったからといって何になるでしょう。

二十万円といえば、当時なら息子の結婚式さえ盛大に挙げてやることができたはずです。現在はどうでしょう。その費用の一部にしか過ぎず、悲惨です。

以上のことから考えますと、三年後の父ちゃんの退職金も、それと類似のことで、それを思うとき腹立たしさを痛感せずにはいられません。保険のこともちろんですが、時代の変りに相応した退職金を獲得するために、現在の頭打ち制度（二十三級）を撤廃させることを前提に、私たち主婦も団結し、父ちゃんたちと一緒になって闘いましょう。私たちの幸せのためにも……。

×

この欄は、とりわけ三池主婦会会員皆さんのものです。皆さんご自身の手稿でこの欄を埋め、豊かな〝姿見〟にして行きましょう。

――編集部

四山指導部、統一行事〝柿狩り〟

四山指導部は十月二十二日、〝柿狩り〟（田主丸）の家族ぐるみ統一行事でした。ここに寄せられた二人の主婦の方の手記をご紹介します。（写真は、四山指導部の待鳥英勝さん）

田主丸の空は青く

四山小川開　左藤みさ子

〝坂本果樹園〟内は人人人……。そうですー。今日は四山指導部主催の統一行事〝柿狩り〟で、組合員、主婦、退職者、児童、幼児みんな家族ぐるみ二百三名が参加しているのです。

「おいしい」

私は、手のひら一杯に握りしめた食いかけの柿を、しみじみと眺める。山畑一面、柿の紱たんで、たわわに実った黄色が秋の日射しに映えて、ここ田主丸市玉山の麓、果樹園の持主から「根元からチョン切って下さい」、の説明を聞き、めいめいが手さげ籠とはさみを持って、柿畑約一ヘクタール内に散っているのです。

柿の木は、どれもが思ったほど高くはなく簡単にもぎ取れます。だからといって、気前よく籠の中に放りこむ訳ではいきません。なぜなら、入口の精算所で検量する時、一キロが三百円ですから籠一杯ですと、たちまち三、四千円になるのです。

私はこの際と、腹一杯に本場物を食味しようと思い二つめの柿に挑戦しましたが、半分でもう駄目でした。

ともかく、今日は天気はいいし楽しい気分です。思えば、朝八時に、県堺の荒尾製氷工場前に全員が集合し、貸切りバス四台に各職場分会毎に分乗、田主丸まで約二時間の行程でした。車中では、それぞれのど自慢などがあり、談笑に花が咲きました。

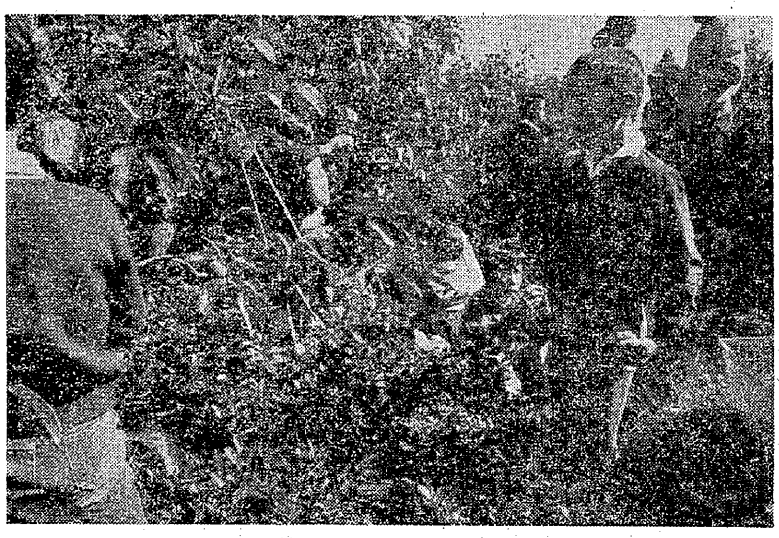
これまでにこぎつけてきた実行委員の皆さん、本当にご苦労さまでした。だが、指導部全員のアンケートにより、バス旅行が決定した八月の時点から、人員の掌握、会費徴集など困難はあったにせよ、当初予想された三百名の参加が大幅に減った理由は「参加することも団結の一つ」という意識のひくさ、また、それをヘゲモニーする的確さが不足したことは、主婦会も含めて、今後のあらゆる闘いに備えて大いに警鐘になる点ではないでしょうか。

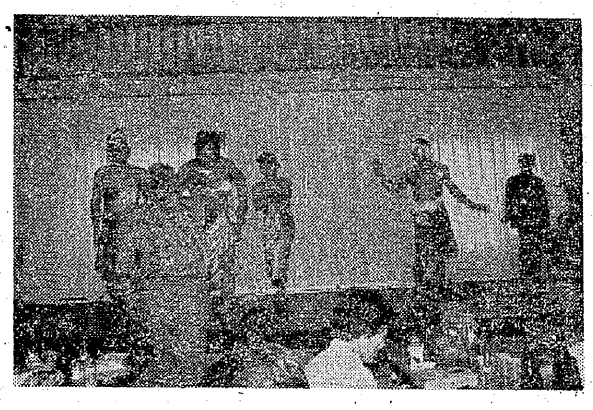
しかし、何といっても今回の統一行事は成功だったと思います。碧い空とおいしい空気。〝柿狩り〟といった斬新なアイデア。それに原鶴温泉延命館での中食会。制約された時間内でしたが、職場の仲間と、家族ぐるみの交流ができたことと思います。

私は、来年もこういった家族ぐるみの旅行を、ぜひやってもらいたいと思います。

おわび

ちょうど、三池大災害十五周年にぶつかり、記事が殺倒したために、各紙面で、寄稿いただきながらもたくさんの手記などが積み残しとなりました。それらの分は次つぎに必ず紹介しますのでしばらくお待ちいただくようお願いします。悪しからず。　編集部





写真上は、楽しい柿狩り。下は、原鶴温泉の中食どきのひとコマ。ご覧の通り、裸踊りまで飛び出しての統一行事だった。

裸おどりも……

四山大島分会　中内栄子

四山指導部統一行事の〝柿狩り〟に、わが家も一家四人参加しました。

バスの中はガイドさんの説明やうた、それにみんなもかわるがわるうたって、組合員の方たちは早くもでたお酒を楽しんでいる内に、午前十時半頃目的地へ着きました。

柿ちぎりは子供たちは初めてのことでよろこんで、あれもこれもとちぎりますが、会計係の私としては、そうやたらとちぎるわけにはいきませんでした。

午時零時半頃着いた原鶴温泉では、昼食の時のど自慢などの余興がとび出し、四分会の裸おどりにはお腹が痛いほど笑いころげ、宝くじを引き、温泉にも入り、楽しい一日を過しました。

最後に指導部長の音頭で「ガンバローー」を三唱し、帰途に着きました。実行委員の皆様方、大変お世話様でした。